

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（例）

【学 年】 小学校第3学年

【単元名】 植物の育ち方〔2〕（4時間扱い）

【育成する資質・能力】

〔知識及び技能〕	〔思考力, 判断力, 表現力等〕
(1) ア(ウ) 植物の育ち方には一定の順序があること。また、その体は根、茎及び葉からできていること。	(1) イ 身の回りの生物の様子について追究する中で、差異点や共通点を基に、身の回りの生物と環境との関わり、昆虫や植物の成長のきまりや体のつくりについての問題を見だし、表現すること。

【主な学習活動と留意点】

前単元からのつながり：「植物の育ち方〔1〕ヒマワリとホウセンカの種子を比較してその後の成長に思いを寄せる。種まきをして発芽の様子を共通性と多様性の視点で比較し、考察する。

働かせる見方・考え方：葉の大きさ、茎や根の長さに着目し、共通性と多様性を見方を働かせて、ヒマワリとホウセンカを比較しながら調べ、考えること。

段階	学習活動（時間）	留意点
見通しをもち	1 約2か月前に種子をまいたヒマワリとホウセンカについて、どうなっているか予想する。(0.5)	<p><b>内容のまとまりの見通しをもつ場面</b></p> <p>☞ 栽培中の子供の言葉から種まきのときを想起できるようにして、ヒマワリとホウセンカについてどうなっているか観察の意欲がもてるようにする。</p>
	子供の願い：大きくなったヒマワリとホウセンカの「同じところ」と「ちがうところ」を知りたい。	
追究して	2 ヒマワリの成長を発芽のときと比較して観察する。(0.5) 3 ホウセンカの成長を発芽のときと比較して観察する。(1) 4 ヒマワリとホウセンカの成長を比較して観察する。(1)	<p><b>自然の事物・現象を体験し、違いに気付く場面</b></p> <p>☞ ヒマワリとホウセンカについて、それぞれ発芽のときと比較して「同じところ」と「ちがうところ」を見付けられるようにする。</p> <p><b>知識をつなげ、より科学的な概念を形成する場面</b></p> <p>☞ 大きく成長したことについて、ヒマワリとホウセンカを比較して「同じところ」と「ちがうところ」を見付けられるようにする。</p>
振り返る	5 身の回りの植物とヒマワリやホウセンカの成長を比較して観察する。(1)	<p><b>学んだことを活用したり疑問をまとめたりする場面</b></p> <p>☞ 気付いた「同じところ」が学校周辺の植物にも当てはめることができるか、ヒマワリやホウセンカと比較して観察できるようにする。</p>

次単元へのつながり：「植物の育ち方〔3〕」大きくなったヒマワリとホウセンカを比較してこれまでの観察を振り返り、共通性と多様性の視点で比較し、植物の成長過程について考察する。